

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 勝股 秀通

研究課題		少子と過疎の日本が目指す国境離島の守り方(長崎・五島列島を事例に)
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成30年度の個人研究費は、以下に述べるような研究計画を実行するために使用された。30年度の研究計画は、過疎と少子化に直面する国境離島において、領域警備をめぐる自衛隊や海上保安庁といった危機対応の治安機関と地元自治体、及び民間組織の協働はどのように可能かという視点を考察することであった。 具体的には、長崎・五島列島を事例に滞空型無人機(UAV)の拠点としての可能性を探るとともに、四面環海のがわ国において、領域警備体制を維持強化することと、離島振興という経済的な観点からの地元自治体の要望が共存する道筋を考えることが目的であった。同時に、30年度の科研費申請を念頭に、現地調査によって五島列島が抱える現状と課題を正確に把握することも目的であった。
	研究成果	30年度の研究成果としては、滞空型無人機の飛行安全性について、自衛隊や海上保安庁の担当者から海外での事例に基づく詳細な事例を得ることができたことに加え、それらデータに基づいた現地調査において、地元の五島市、及び新上五島町という二つの自治体関係者から、積極的に導入する意思を得ることができたことである。五島列島をはじめ離島の人口流出と高齢化による経済規模の縮小は深刻さを極めており、日本の厳しい安全保障環境を勘案すれば、離島振興に寄与する形での早期導入を具体的に進めていく段階にあると確信する。 反省点として、危機管理学部の企画広報委員として「広報誌」の新規制作など校務に思いのほか時間を取られ、学会発表など対外的な発信に費やす時間をつくることができなかつたことである。次年度は学会発表を含め対外発信に積極的にかかわりたいと考えている。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	①論文：勝股秀通「海洋日本の警戒監視強化策」、『海外事情』(拓殖大学海外事情研究所、平成30年5/6月号、102～115頁)
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①雑誌投稿：勝股秀通「国防の盲点」『Wedge』(2017年6月号から連載継続中・本年度分は18年6月号～19年5月号) ②雑誌投稿：勝股秀通「沖縄の基地負担と向き合う時」『世界平和研究』(No.219 Autumn 2018、8～9頁) ③講演会等：第14回安全保障シンポジウム「新たな防衛大綱への提言」(2018.11.19) ④講演会等：第15回安全保障シンポジウム「東アジア情勢を考える」(2019.3.5) ⑤社会貢献活動：内閣府準天頂衛星システム事業推進委員会公共信号分科会委員(2017年4月～継続中)